

## 松嶋夜話 卷之下 73

〔原文〕此年此辰有覺範虎哉和尚八十齡之上梁之文及松島瑞巖之記矣

〔訓読〕此の年此の辰、覺範の虎哉和尚の八十齡の上梁の文及び松島瑞巖の記有り

※覺範寺…天正十四年（1586年）伊達政宗は二本松の畠山義継による拉致で非業の死を遂げた父、伊達輝宗の菩提を弔うため、米沢西南の遠山に覺範寺を開基した。遠山は西北に輝宗が隠居した館山城があり適地であった。政宗は夏刈の資福寺から自分の師である虎哉宗乙禅師を招き、覺範寺を開山した。また輝宗に殉死した遠藤基信らの墓も設けた。しかし天正十九年、政宗が岩出山に移封されると覺範寺も移り、その後仙台北山に移った。当初、米沢にも寺は残されていたが、政宗の後に置賜を支配した蒲生氏郷により取り壊されたという。

〔原文〕蓋開山法身文永十年癸酉二月卅四月入滅

〔訓読〕蓋し開山の法身、文永十年癸酉二月卅四月入滅す

〔原文〕事顯見元亨釋書無住老人砂石集圓伊選集抄等

〔訓読〕事は、元亨釋書、無住老人の砂石集、圓伊の選集抄等を顯見す

※『元亨釈書』…日本の歴史書。鎌倉時代に漢文体で記した日本初の仏教通史。著者は臨済宗の僧、虎関師錬（1278年－1346年）。全30巻。

※『沙石集』…鎌倉時代後期、仮名まじり文で書かれた仏教説話集。10巻、説話の数は150話前後。無住道暁（号は一円）が編纂。弘安2年（1279年）に起筆、同6年（1283年）成立。その後も絶えず加筆され、それぞれの段階で伝本が流布し異本が多い。記述量の多い広本系と、少ない略本系に分類される。

※円伊…生没年不詳）は鎌倉時代後期の画僧。僧位は法眼和尚位で国宝である一遍聖絵を描いた。

〔原文〕去於今至于元文三年之午四百六十六年也

〔訓読〕今を去って、元文三年の午に至って、四百六十六年なり